

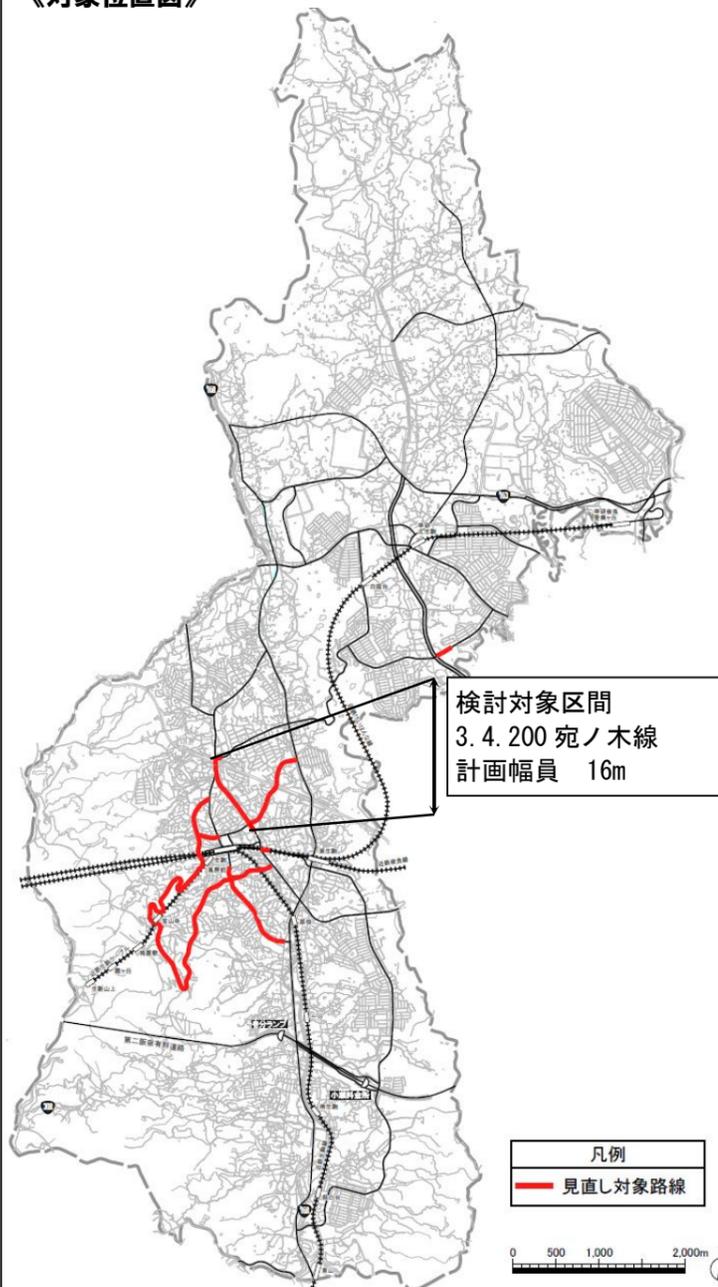
《路線概要》

- ◆起点：生駒市谷田町
- ◆終点：生駒市南田原町
- ◆検討対象区間：生駒市谷田町 ～ 生駒市俵口町
- ◆計画決定の変遷：
- ◆路線延長：約 2.68km
- ◆幅員、車線数：16m、2車線
- ◆検討対象区間延長：0.63km
- ◆計画決定：奈良県
- ◆現道の有無：有(県道生駒停車場宛ノ木線)
- ◆道路の階層区分：広域幹線道路

S42.4.18 当初決定	本町行政区域の拡大に伴い近接大都市間の観光産業ルートの整備によって、急激なる宅地等の団地造成の続出するためにこれら開発地区を予想して秩序ある計画を樹立し将来の発展に支障のないよう整備し住宅都市としての機能強化を図り本町特有の緑の都市として市民の福祉向上に資そうとするものである。
S48.1.27 一連番号の統一	一連番号の統一。
S56.11.10 終点変更	奈良西幹線は、生駒市の南北幹線として、昭和42年4月18日に都市計画決定し、その後順次整備を行っている路線である。本路線の阪奈道路以北においては、他に代替ルートもないことから道路混雑等の交通問題が生起しており、緊急の整備が望まれているところである。今回、事業をふまえた詳細設計の中で、沿道の土地利用を有効に図り、良好な街づくりに寄与するために法線を変更する。また、それに伴って宛ノ木線の終点の変更も併せて行うものである。
S60.1.18 一部法線変更	本路線周辺の開発状況と将来土地利用等を勘案のうえ、その一部区間を変更するものである。
H15.9.24 車線数の明記	「車線の数」が都市計画を定める要件の一つとして追加され、同時に都市計画道路の決定権者の区分が「幅員」から「車線の数」に変更されたため。

《対象位置図》

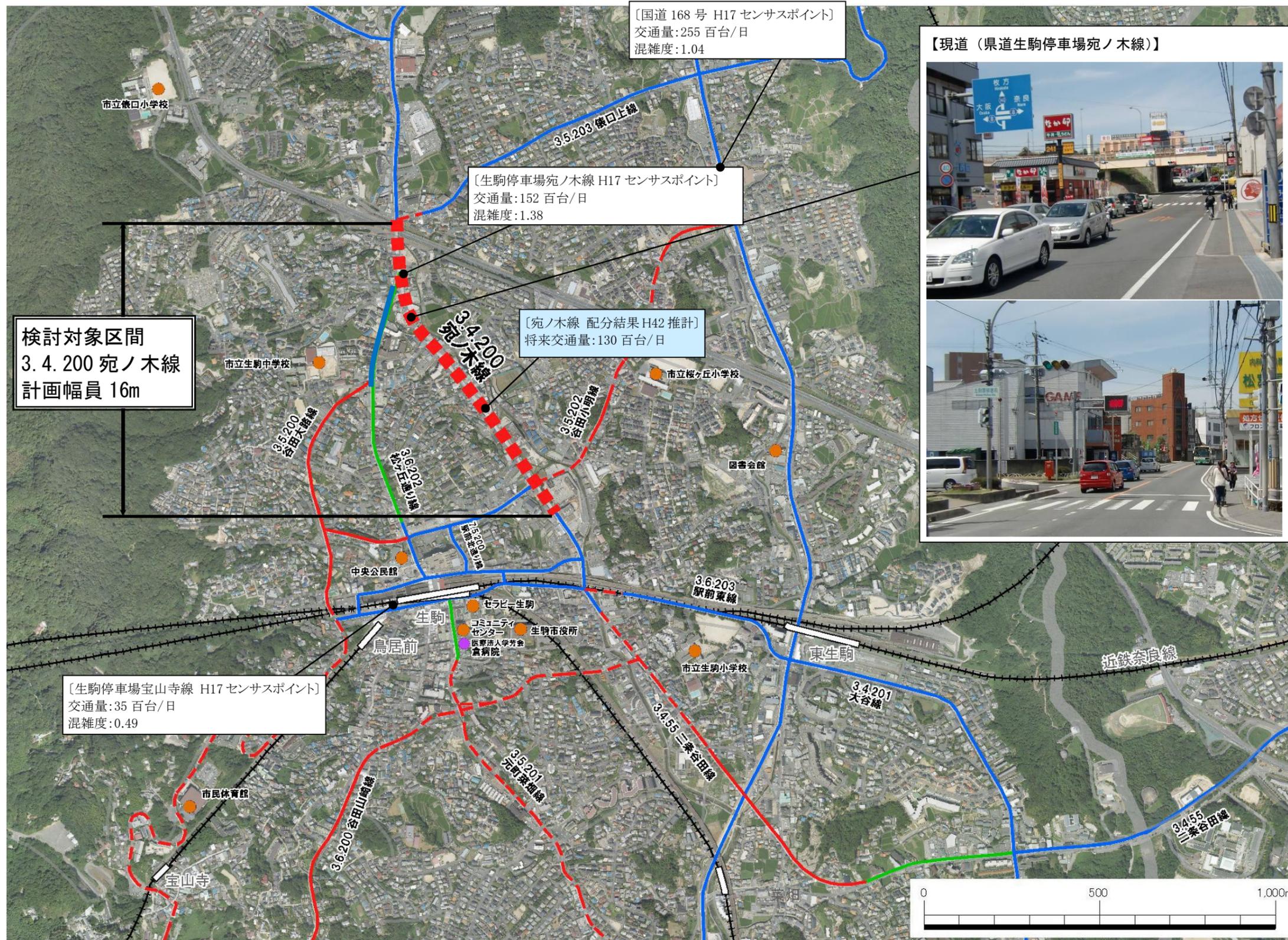
《必要性の検証》



機能分類		必要性検証			代替性検証	
①交通機能	自動車	混雑緩和	当該路線の現道や周辺路線が混雑しているか	○	なし	・代替機能なし
			関連計画等における「渋滞箇所」としての指定がされているか	○	あり	・現道が機能を代替する。(具体的な対策あり)
			当該路線又は並行路線の混雑緩和に寄与するか	—		
			将来交通量を踏まえ、自動車のボトルネック踏切の混雑緩和に寄与するか	—		
	歩行者・自転車	ネットワーク	マスタープラン等に位置付けられているか	○	なし	・代替機能なし。(広域幹線道路)
			安全性	自動車交通の安全性向上に寄与するか	—	
		アクセス	交通結節点へのアクセス強化に資するか	—		
			インターチェンジを有する道路にアクセスするか	○	あり	・現道が機能を代替する。
			救急告示病院にアクセスしているか	○	あり	・現道が機能を代替する。
			安全性	事故多発箇所又は事故危険箇所等に指定されており、改良により交通安全対策として寄与するか(歩道・自転車道)	○	なし
ネットワーク	歩行者・自転車道のネットワークの位置づけがあるか	—				
	バリアフリー新法に基づき定められた「特定道路」や「生活関連経路」としての位置づけがあるか	—				
②空間機能	都市環境機能	景観や沿道の都市空間のネットワークの位置づけがあるか	—			
	都市防災機能	避難・救援機能	緊急輸送道路に位置づけられており、機能強化に資するか	○	あり	・現道が機能を代替する。
			防災拠点にアクセスしているか	—		
			防災計画上の避難路としての位置づけがあるか	—		
	災害防止機能	火災の延焼防止効果等の防災に資するか	—			
収容空間	駅前広場や駐車場、駐輪場などの交通施設の収容空間の位置づけがあるか	—				
	電線類等の各種施設の収容空間の位置づけがあるか	—				
③市街地形成機能	都市構造・土地利用の誘導形成	企業立地・観光振興などを支援する都市計画道路としての位置づけがあるか	—			
	街区形成機能	土地区画整理事業や再開発事業などの面的整備地内の都市計画道路としての位置づけがあるか	—			

《存続、条件付存続、廃止の検証結果》

検討結果
存続



◆検証結果

- 宛ノ木線は、生駒市の南北交通を支える市の広域幹線道路としての市都市計画マスタープランでの位置付けがありますが、混雑緩和及び歩行者の安全性を代替する路線が存在せず、路線の必要性が高いと言えます。
- また、宛ノ木線の見直し対象区間については、現道として県道生駒停車場宛ノ木線が2車線で整備されていますが、歩道の幅員が狭い状況です。
- 今回の見直し対象区間周辺の谷田地区・辻町地区は、平成 21 年 3 月に警察庁と国土交通省により「あんしん歩行エリア」に指定されており、面的に死傷事故抑止対策を講じる必要性が認められること、また、歩行者等の通行の安全性を確保できる代替路線がないことから、「存続」が妥当と考えます。

凡例	
<span style="color: blue;">—</span>	完成
<span style="color: green;">—</span>	事業中
<span style="color: red;">—</span>	未着手(現道なし)
<span style="color: red;">- - -</span>	未着手(現道あり)

整備状況は平成 23 年 3 月 31 日現在